

<p>事業名称</p>	<p>違いを楽しむアートワークショップ</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>リビングケア(5名)</p>	<p>代表者</p>	<p>北村 佳奈</p>
<p>事業の内容</p>	<p>私たちは木更津市在住の音楽家・保育士・介護福祉士・生命保険営業職、そして臨床美術士による市民団体です。                  それぞれがそれぞれの立場で、社会人として働き生活する中で、お互い様で助け合えるような地域コミュニティの重要性を感じて、2019年に「リビングケア (art of dialogue)」を立ち上げました。                  一人きりの子育てや、一人暮らしの孤独感、学校や会社に行きづらいなどの悩みを抱えた人たちも、ほっと一息つけるかけこみ寺のような場所。家庭でも、学校でも、職場でもない第三の居場所。無理に輪に入らなくてもいい、ひとりでもひとりぼっちだと感じない。誰でも利用できる、誰でも居心地よくいられるような、そんな“居場所”づくりを目的とし、上手い下手のない世界で、どんなバックボーンを持った方でも、誰もが平等に楽しんで、みんな違ってみんないいと認め合える「アート」をきっかけに、そんなコミュニティづくりを実現したいと考えています。                  イタリアのレッジョ・エミリア市では、「100人いれば100通りの考えがあり、そして100通りの表現の仕方がある」という考えに基づいて、街ぐるみでアートを取り入れた地域コミュニティづくりが行われており、“互いの違いを認め合う”ということを実践しています。私たちはそんなレッジョ・エミリア市にヒントをもらって、10年計画で、アートギャラリー兼コミュニティスペースを木更津市につくりたいと考えています。そこには赤ちゃんからお年寄りまで、お茶を飲んだり喋ったり、絵を眺めたり、描いたり、昼寝したっていい。いつでも絵の具に触れて、芝居や映画も観られる、楽器も演奏できる、本棚には本がいっぱい。壁一面には作品が展示されている。授乳オムツ替えスペースもある。そんなバリアフリーなアートギャラリーを計画しています。                  その準備段階として、現在木更津市を中心に「違いを楽しむ」出張アートワークショップを企画開催しています。                  令和4年度は、春夏秋の年3回、主に未就学児～小学生とその保護者を対象としたアートワークショップを企画開催致します。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>【目的】私たちはこのワークショップを通じて、多様な価値観同士が出会い、対話し、互いの違いを尊重し合える居場所づくりを目的としています。                  【必要性】この数年、SNSの普及も相まって、育ってきた環境や世代・性別等で価値観が大きく異なる人同士のぶつかり合いを目にする機会が増えたように思います。「自分と考えが違う人をむやみに攻撃しなくても大丈夫、様々な人がそれぞれの事情を抱えながら生きている」ということを理解し、誰もが生きやすい社会をつくるために、アートは大きな役割を果たしてくれると実感しています。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>【第一回】                  2022年3月上旬 企画立案                  2022年4月中旬 参加者募集開始 (定員20名)                  2022年5月下旬 第一回アートワークショップの実施                  場所：木更津市鎌足地区 たぬき工房裏山                  【第二回】                  2022年8月上旬 企画立案                  2022年9月中旬 参加者募集開始 (定員20名)                  2022年10月下旬 第一回アートワークショップの実施                  場所：木更津市鎌足地区 たぬき工房裏山                  【第三回】                  2022年9月上旬 企画立案                  2022年11月3日 木更津オーガニックシティフェスティバルにて                  アートワークショップブースの出店                  場所：木更津市 潮浜公園</p>		

審査基準：  
「公益性・実現性」

審査基準：  
「公益性」

審査基準：  
「実現性」

事業名称	違いを楽しむアートワークショップ		
団体名 (構成人数)	リビングケア(5名)	代表者	北村 佳奈
事業の特色	<p>参加者は、クレヨンや絵の具・木の枝や草花などの自然物を使って、自由な発想で造形表現に取り組み、最後に鑑賞会を行います。上手い下手という評価にとらわれず、創作する過程や参加者同士の表現の「違い」を楽しみます。</p> <p>親子で参加した場合も、親が子どもの創作をサポートするのではなく、大人は大人・子どもは子どもでそれぞれが一人の表現者として作品作りに取り組みます。</p>		
審査基準: 「独創性」			
来年度以降の 事業展開予定	<p>年3回のアートワークショップ主催に加え、誰でも立ち寄れるコミュニティスペース兼アートギャラリーの常設に向けて物件を探します。(木更津駅周辺、商店街の空き店舗を候補に)</p>		
審査基準: 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	<p>2019年 木更津まちづくりコンテスト 優勝                  2020年 アートイベント「居場所ってなんだろう」主催 (木更津金田地域交流センター)                  2020年木更津市文化課主催芸術文化に親しむまちづくり振興事業「アートとふれあおう」春秋アートワークショップ企画協力                  2021年 社会福祉法人木更津市社会福祉協議会主催「令和2年度 学習支援研修会」企画協力                  2021年 木更津市文化課主催芸術文化に親しむまちづくり振興事業「アートとふれあおう」春秋アートワークショップ企画協力                  2021年 木更津オーガニックシティフェスティバル ブース出店                  2021年 木更津駅みなと口階段アート 企画協力</p>		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 1

事業名称	違いを楽しむアートワークショップ		
団体名 (構成人数)	リビングケア(5名)	代表者	北村 佳奈

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	161,000		報償費	150,000	外部講師謝礼50,000 ×3回
会費	25,000				
参加費	60,000	1000円×20名= 20,000円 (計3回)	旅費	6,000	外部講師交通費2,000 ×3回
			材料費 (3回分)	30,000	
			使用料・賃借料	20,000	施設費 (第1回、 第2回)
			印刷製本費 (3回 分)	10,000	片面フルカラー 300部×3
			委託費	30,000	チラシデザイン外 注費
合計	246,000		合計	246,000	

<p>事業名称</p>	<p>健康よろず相談室</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>一般社団法人健康よろず相談室 (4名)</p>	<p>代表者</p>	<p>齋藤 武</p>
<p>事業の内容</p>	<p>一般社団法人健康よろず相談室は平成29年に設立した非営利法人です。 「病院に行くほどでもないけど、ちょっと相談したい」そんな時、気軽に立ち寄って頂ける場所として、相談室を設立いたしました。 「健康よろず相談室」は生徒の相談や癒しの場としての機能も果たしている「学校の保健室」のように、心や身体についての様々な気付きや問題を、老若男女問わず気軽に専門職に相談することができる場と機能のことであります。 現在、地元の専門職（薬剤師、弁護士、コーチング、カウンセリング、傾聴等）がボランティアで相談を受け付けており、岩根公民館や金田地域交流センター、立ち寄り館にて月1回ずつ活動を行っております。 相談内容は多岐にわたり、薬剤師の行う服薬相談や傾聴ボランティアによる心の相談、さらには介護相談や子育て相談等を受け付けています。 また、相談だけではなく、必要に応じて各学校や福祉施設等に訪問し、薬育教育や薬物乱用防止やイジメ撲滅運動等の講演も行っております。 令和3年度については、上記の相談業務等を限られたボランティアだけでも実施していけるよう、相談内容を明確化する為のタッチ式のデジタル問診票を作成中です。トップページの「医療」「介護」「法律」「その他」の選択肢の中から「医療」を選択した場合、次のページでは「病院について」「お薬について」など、枝分かれしていく仕様となっています。完成次第、既存のデジタルサイネージ等に落とし込み、円滑かつ適正な相談受付が出来るように環境整備を進めています。 これらの機器を公民館等に設置し、事業の周知と相談窓口の紹介・行政情報や地域情報を取り入れることで、わざわざ病院や市役所に行くまでもなく、簡易な相談業務が地域でできることで、担当者の業務の軽減と効率化を実現していきます。</p> <p>○事業スケジュール 令和3年度 実行中 (2月現在) □ WEBアプリのインターフェイスの構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体設計</li> <li>・ペルソナ設定</li> <li>・HTMLコーディング</li> <li>・デザイン</li> <li>・CSVコーディング</li> <li>・動作検証□</li> </ul> <p>令和4年度 (予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の相談のタブと階層の構築。</li> <li>・メーリングソフトとの連携構築</li> <li>・LINEとの連携構築</li> <li>・facetimeとの連携構築</li> <li>・らざナビとの連携構築</li> <li>・他の相談内容の階層掘り下げ</li> <li>・各団体との連携強化</li> </ul>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>少子化の進行による本格的な人口減少社会の到来、平均寿命の伸長による超高齢社会の到来等、日本の人口構造は大きく変容してきております。 木更津市においても少子化、超高齢社会の影響は課題となっており、そのような社会構造の変化に柔軟に対応していくためには、行政主体ではなく、市民をはじめ、各種団体、企業など地域社会を構成する多様な主体が自主的かつ主体的に行動し、安心して暮らしていける持続可能な地域づくりを行っていく必要があります。 健康よろず相談室は、高齢者をはじめとする地域住民が自身の健康状態に合わせた管理方法を主体的に選択・実践できるよう、多様なニーズに柔軟に対応していきます。多岐にわたる相談を受け付けることで、公的機関よりも、より身近に相談できる場所を市民へと提供し、市役所や病院等の公共機関への相談の前捌き機関として機能を持たせることで、市役所においては、相談業務の減少による人件費の削減、また、本来行うべきである業務への注視が図れます。 また、病院においては超高齢社会を迎えていくなかで患者数増加に伴い、医療費の増大が懸念されます。この現状の中、よろず相談室が機能すれば、既存のシステムでは解決が難しい「未病」へのアプローチも可能となります。 市民にとっては過度に病院に相談する必要がなく、時間的、空間的、金銭的な余裕につながります。 将来的には木更津市内に健康よろず相談室を広げていき、新たなボランティアスタッフ等の協力者を募り、市民が安心して暮らしていける「共助」のプラットフォームを作り、持続可能なまちづくりを目指します。</p>		

審査基準：  
「公益性・実現性」

審査基準：  
「公益性」

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人健康よろず相談室 (4名)	代表者	齋藤 武
スケジュール	<p>健康よろず相談室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第3水曜日 岩根公民館</li> <li>・毎月第2水曜日 金田地域交流センター</li> <li>・毎月 第一木曜日 木更津市立ち寄り館</li> </ul> <p>若しくは木更津市市民活動支援センター みらいらぼ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会 (公民館・小・中学校)</li> <li>・市内中心市街地活性化協議会への参画</li> <li>・コンテンツ 第一部試作中 (令和3年度)</li> <li>第二部 (今回・令和4年度) はもう一段階層を深め改善を図ります。</li> </ul>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <b>審査基準： 「実現性」</b> </div>	<p>多様な主体が協働しながら、共助の仕組みを構築し持続可能なまちづくりを行っていきます。</p> <p>2019年の朝日新聞取材時では日本に全く同じシステムはなく、その後も各地で派生をみる が、いまだこれらのシステムが機能している自治体の声は聞こえてきていません。</p> <p>「人的コミュニティの構築」と「DX化」を、同時かつシームレスに進めるには、当該市の 特徴とデジタルの分野に明るい団体が不可欠となっています。</p> <p>その役割の一翼を健康よろず相談室は担います。</p> <p>行政は新たな前捌き機関が創出されることで、業務負担の軽減につながるとともに、本来の 仕事である市民サービス業務に注力でき、市民満足度もあがります。</p> <p>食事や運動分野のアドバイスをすることで病気を未然に防ぐことができ、医療費の適正化 が図れ、超高齢社会をむかえる際の社会保障費対策として効果を期待できます。</p> <p>専門家が「心の相談」にも乗ることで、相談者の満足度の向上にも寄与しています。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <b>審査基準： 「独創性」</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを駆使した業務の効率化</li> <li>・講演会や説明会を通じた地域住民の専門知識向上</li> <li>・地域住民と専門家のニーズマッチングのプラットフォームとしての機能強化</li> </ul> <p>制作したWEBアプリにてオンラインで相談業務の受けつけ開始。</p> <p>まだすべてを作成出来ていないので、オンラインと対面の併用を進めて行き、今回作成した β版の改善を図りつつ、より使いやすいインターフェイスの作成をしていきます。</p> <p>現在活動はボランティアで行っているが、システムのデジタル化が進み相談者と専門家双方 の利便性が向上すれば、当事者たちの相談業務負担軽減へと繋がり、専門家（企業）は相談 者（顧客）と繋がる事で、バックエンドの自社のサービス等につなげやすくなります。</p> <p>専門家（企業）をよろず相談室で精査・管理することにより、余計な詐欺や過払い等の不利 益も避けることが出来ます。</p> <p>デジタルシステム構築後は企業から賛助会費を集め自走していく予定となっております。</p>		
過去の活動実績	<p>2018年より岩根公民館にてスタートし金田地域交流センター、立ち寄り館をと活動の場 を広げており、相談人数の延べ人数は300人を超え、現在も相談者は増えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩根公民館 相談会実施</li> <li>・金田公民館 相談会実施</li> <li>・木更津市立ち寄り館にて 相談会実施</li> <li>・地域郵便局のフェアにて相談会実施</li> <li>・公民館での講演会・説明会</li> <li>・お寺にて講演会</li> <li>・地域サロンにて相談会、説明会、実施</li> <li>・民生委員会会議への参加、説明</li> <li>・地域ケア会議への参加</li> <li>・自立支援に資するケア会議への参加</li> <li>・多地区合同の地域資源研究会への参加、説明</li> <li>・校長会への参加と説明</li> <li>・木更津市広報、公民館報、新聞、地域コミュニティSNS等に活動掲載</li> </ul>		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 2

事業名称	健康よろず相談室		
団体名 (構成人数)	一般社団法人健康よろず相談室 (4名)	代表者	齋藤 武

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		委託費	695,000	相談用WEBアプリ製作費 (第2期分) 全3期
自己資金	255,000		消耗品費	30,000	事務用品・用紙代
			印刷製本費	30,000	チラシ (200部) ポスター (50部)
合計	755,000		合計	755,000	

<p>事業名称</p>	<p>農村の魅力再発見事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>田園の風 (5名)</p>	<p>代表者</p>	<p>鈴木 健司</p>
<p>事業の内容</p>	<p>四季を通じた農業体験や農村ならではの伝統的な生活体験、そして地域の人達との交流を図ることにより、県、内外にこの地域の魅力を発信する事業を展開する。</p> <p>① 未利用地を活用した体験型農園の開設 小櫃川流域沿いは、以前から肥沃で豊かな田園が広がり、稲作栽培が盛んに行われていた。現在は、所々に耕作放棄地、未利用農地が見られ、環境等への悪化が懸念されている。そこで、耕作放棄地などを活用し、四季を通じた体験型農園を開設し、市内外の人達が農業体験や収穫の喜びを味わうことのできる農業の再発見の場を創出するものである。道の駅「うまくたの里」の近接の農地を最大限に活用し、道の駅来訪者に対して、気軽にできる「プチ農業体験・収穫体験」を味わって頂くことにより、来客施設であり地域の活性化拠点である道の駅の魅力向上にも繋げていきたい。</p> <p>具体的には、道の駅近接地に「田園の風」が肥後管理した体験型農園を開設し、四季折々の野菜等を立寄り気分で味わえる農業体験の場を提供するもので、道の駅来訪者に対して農地の触れ合いと収穫の喜びを体感してもらうものである。 (栽培予定作物・・・サツマイモ、ジャガイモ、枝豆(収穫体験・もぎとり体験))</p> <p>② 田園ビューの魅力紹介 当小櫃川流域は小櫃平野の一部とする広々とした農地は、雄大な山並みが連なる箱根山系と対比しても引けをとらない美しい田園風景が広がっている。 特に、春先の早苗が植えられた頃は、緑のじゅうたんを敷いた様な一面萌黄色の田園、また収穫期を迎えた小金色の田園は遠くの山並みと融合し、ここでしかみられない風景が残っている。 そこで、それぞれの季節に、富来田地域の田園ビューの素晴らしさを体感してもらい、さらにはこの魅力を内外に発信していき、交流人口の増加等、地域の活性化に繋げていきたい。</p> <p>具体的には、道の駅第二駐車場法面や農地の一部を利用して菜の花・ヒマワリ・コスモス等を咲かせ道の駅来訪者に富来田地域の美しさと「田園の風」を満喫してもらう。</p> <p>③ 伝統的な生活体験の実践 当地域には、昔から受け継がれている生活文化がある。 食文化では、味噌づくりや糰づくり、太巻き寿し等、時季により地域の味として親しまれている。 生活文化では、お飾りづくり、お餅つき等、また、伝統技術では、竹箆などの匠の技も残されている。 具体的には、コロナ禍にあって、4年度はお正月のお飾りづくりや子供の遊びの竹細工づくり等の体験希望者を募り実践する。</p>		
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>小櫃川流域沿いは、所々に耕作放棄地、未利用農地が見られ、環境等への悪化が懸念されている。 そこで、耕作放棄地などを活用し、四季を通じた体験型農園の開設することにより、市内外の人達が収穫の喜びを味わうことにより、農業の再発見につなげたい。 併せて、道の駅「うまくたの里」の近接の農地を活用し、道の駅来訪者に対して、収穫体験をして頂く場を提供することにより、道の駅の魅力向上にもつなげていきたい。 また、圃場(農地)の管理(耕耘・草刈等)には、年間を通して多くの手が必要となることから、地元のシルバー人材を活用するなど地域の雇用に繋げていきたい。 なお、当地域には、昔から受け継がれている生活文化があり、特に食文化では、味噌づくり、太巻き寿し等、時季により地域の味として親しまれている。 そこで道の駅の多くの来訪者に対して、この地域の生活文化に触れて頂くことで、その魅力を県内外に発信することができる。 更に当小櫃川流域は、美しい田園風景が広がっており、四季折々の富来田地域の田園ビューの素晴らしさを体感してもらい、この魅力を市内外に発信していくことにより、交流人口の増加等、地域の活性化に繋げていきたい。</p>		

審査基準：  
「公益性・実現性」

審査基準：  
「公益性」

<p>事業名称</p>	<p>農村の魅力再発見事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>田園の風 (5名)</p>	<p>代表者</p>	<p>鈴木 健司</p>
<p>スケジュール</p>	<p>1 未利用地を活用した体験型農園の開設                  4月 未利用地の整備、耕運                      ジャガイモの植え付け                  5月 サツマイモの植え付け                  6月 枝豆(大豆)の植え付け                  7月 ジャガイモ収穫体験                  9月 サツマイモの収穫体験                  10月 枝豆の収穫・もぎとり体験                  2 田園ビューの魅力照会                      4月 菜の花の開花・摘み取り(令和3年12月播種済)                      5月 ヒマワリ播種                      6月 コスモス播種                      8月 ヒマワリ開花・摘み取り                  10月 コスモス開花・摘み取り                  12月 菜の花播種                  3 伝統的な生活体験                      12月 正月用お飾りづくり                      2月 子供の遊び竹細工づくり(竹トンボ等)                      3月 麴づくり・味噌づくり体験</p>		
<p>事業の特色</p>	<p>①体験型農園(収穫体験)                  道の駅に近い農地の立地条件を活かし、道の駅からの情報発信や観光協会からの案内等により、「子供から大人まで、手軽に楽しめる地元農産物の収穫体験」をテーマに、多くの人達に本当の味・採れたての味を知って頂くと同時に農地の恵みを体感してもらう。                  さらには、地大豆など地域の農産物の素晴らしさを知って頂き、木更津市富来田の味としてリピーターを確保し地域の活性化にも繋げたい。                  ② 田園ビューの魅力照会                  小櫃川流域・田園、久留里線沿線の魅力を再発見し広報するものであり、この魅力を周知することにより、交流人口の拡大や地域の人達の定住促進にもつなげたい。                  ③ 伝統的な生活体験                  最近では、直接関ることが少なくなった正月用お飾りづくり、麴づくり・味噌づくり等、農村ならではの生活体験を地域の人達と交流楽しみながら、触れ合ってもらいたい。</p>		
<p>来年度以降の事業展開予定</p>	<p>コロナ禍の状況下においては、人の移動が制限され、交流を意識した事業は厳しい状況が続いている。                  何を変え、何を守り抜くかを見極めながら、ピンチをチャンスに繋げていけるような事業を推進していきたい。                  特に、道の駅や地域住民と連携しながら、来訪者に喜んで頂けるような魅力的な事業の展開を予定していくこととし、道の駅周辺に菜の花、コスモスヒマワリ等を植栽し、周辺環境美化にも繋げる。                  お飾りづくりやお餅つきなどの生活体験等についても手法を検討しつつ、地域資源を有効に活用していきたい。                  また、体験型農園については、体験者のニーズ・状況を把握しながら作付けの種類や面積の拡大を図っていきたい。</p>		

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風 (5名)	代表者	鈴木 健司
過去の活動実績	<p>4月20日 道の駅圃場への鶏糞撒き・圃場の耕耘                  4月23日 道の駅圃場にジャガイモの植え                  5月 9日 道の駅圃場の耕耘・サツマイモ畝づくり                  5月15日 道の駅圃場サツマイモ蔓植え                  6月 2日 枝豆オーナー制の圃場・味噌用大豆の圃場の耕耘                  6月 3日 枝豆オーナー案内を観光協会に依頼                  6月8日～9日 枝豆収穫体験・もぎとり体験・オーナー制・味噌用大豆の圃場へのマルチ敷き                  6月24日・25日 各圃場への大豆種まき                  7月 4日 道の駅圃場へのエントランスゲートの設置                  7月10日・11日 各圃場の畦道等への除草剤撒き                  7月24日・25日 ジャガイモ掘り体験                  8月 7日 道の駅第二駐車場法面へのコスモスの植え                  9月11日 各大豆圃場への害虫駆除                  10月 3日 枝豆・サツマイモ収穫体験の案内チラシを道の駅・観光協会に送付（道の駅はHPからSNSへアクセス）                  10月10日 サツマイモ畝の草取り                  10月16日・17日 枝豆オーナー制の収穫体験                  10月23日・24日 枝豆・サツマイモ収穫体験                  10月24日 千葉日報に23日の枝豆・サツマイモ収穫体験の記事が掲載                  11月27日・28日 大豆刈り・束ね作業                  12月12日 大豆脱穀                  12月18日 道の駅第二駐車場法面への菜の花の植え                  12月19日・20日 大豆脱穀                  1月 8日 大豆の選別                  2月27日 麴づくり（予定）                  3月1日～6日 味噌づくり（予定）</p>		

事業名称	農村の魅力再発見事業		
団体名 (構成人数)	田園の風 (5名)	代表者	鈴木 健司

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		賃料・使用料	60,000	圃場・脱穀機・選別機・自治会館使用料
収穫体験料	150,000	ジャガイモ・サツマイモ・枝豆 各収穫500円×100名 オーナー収穫4,000円×25名	報償費	100,000	正月用お飾り、竹細工
生活体験料	30,000	正月用お飾りづくり・竹細工(竹トンボ等) 1,000円×30名	委託費	170,000	シルバー人材(草取り、大豆種まき・大豆束ね作業6人日52,400円) 支援者(大豆種まき・大豆束ね作業、収穫体験支援作業、麴・味噌づくり支援作業 21人日 21日×7H×800円 117,600円)
自己資金	70,000		原材料費	150,000	ジャガイモ、サツマイモ、ヒマワリ、コスモス、菜の花の種、米、麴菌、塩等
			燃料費	40,000	ガソリン、軽油、混合ガソリン
			消耗品費	100,000	除草剤、化成肥料、黒マルチ(ビニール)、米袋(麴用、味噌用) コピー用紙・カートリッジ等
			通信費	30,000	切手代等
			備品	100,000	イベント用横断幕、のぼり旗等
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 ( 43 名)	代表者	三根 裕之
事業の内容	<p>木更津市立東清小学校を存続させる為に下記の事業を実施する。</p> <p>1, 生徒数を増やすために東清小が小規模特認校であることのPR活動 (チラシの製作、各保育園&amp;幼稚園、近隣地域への配布活動、SNSによるPR活動、垂れ幕・旗の製作、掲示)</p> <p>2, 「輝け！東清小、未来の会」の会報の製作、地域自治会への配布</p> <p>3, 東清小ならではの特色ある活動を行って生徒数を増やす。 (タケノコ狩り、田植え、サツマイモ植え、収穫祭、ホテル観賞、しめ縄作り、風船飛ばし大会、やっさいもっさいオンライン祭りへの参加、ピアノ演奏鑑賞会、コスモス播種、花鑑賞会、新1年生、及び新入生に対する1家族米30kgの配布活動)</p> <p>4, 東清小の児童の安全を守る活動 見守り隊による登下校時の見守り活動の実施</p>		
<p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>	<p>東清小の総児童数は令和4年2月現在54名で小規模特認校4校のうち最も生徒数の少ない小学校で、その内、東清小学区内で児童数は32名で22名 (41%) の児童が学区外からの児童で人気のある学校です。しかし、少子化により東清小学区の児童は年々減少し令和2年4月には木更津市教育委員会から令和4年4月に南清小と統廃合の素案が出されました。そこで東清小を存続させるためには、まずは児童数の確保が必須ですが、それには、保護者や児童が東清小に行きたい、行かせたいと思う学校にしなければならないと考えています。そのためには皆で協力し上記のような活動を行っていかば必ずや生徒の数が増え、複式学級の発生を防ぐことができると思いますが、すぐには児童数は増えないと思うので、地道に辛抱強く活動を続け、PRを行うことが我々に出来ることではないかと思います。また、活動するにあたっては活動資金が必要ですが、今の収入は会員の寄付金と東清小学区の自治会からの助成金で運営しています。市からの補助金がもらえれば非常に助かります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		
<p>審査基準： 「実現性」</p>	<p>・4月、5月 タケノコ狩り、田植え、サツマイモ植え、新1年生への新米30kgプレゼントの目録配布</p> <p>・6月 コスモス播種、ホテル観賞会</p> <p>・7月 やっさいもっさいオンライン祭りに参加</p> <p>・8月 ピアノ鑑賞会、ソーメン流し</p> <p>・9月 東清小PRのチラシ配布活動、新1年生への新米30kgの配布</p> <p>・10月 サツマイモ収穫祭</p> <p>・11月 コスモス鑑賞会、風船飛ばし大会 (SDG s 教育の1環)</p> <p>・12月 しめ縄作</p> <p>・2月 竹とんぼ作り&amp;飛ばし大会</p> <p>・3月 「輝け！東清小未来の会」の総会</p> <p>・令和4年4月から令和5年3月までの通年活動としての見守り隊の活動、及び「輝け！東清小未来の会」月報の製作配布、SNSでのPR活動</p> <p>以上を予定しています。</p>		
<p>審査基準： 「独創性」</p>	<p>本事業は東清小を存続させるために、地元住民と東清小学校とPTA、教育委員会、学童保育、まちづくり協議会が一丸となって地域の特色を生かした活動を行い、東清小の児童数を増やして東清小を存続させる会です。地域住民も東清小を存続させたいと願う人がアンケートの結果632人いることから、存続させることが我々に課せられた使命と思っています。また、地域の特色として、山あり、田んぼありでタケノコ狩り、田植え、ホテル観賞が出来るし、東清川駅から徒歩1分のところに東清小があり、また、東京・横浜・川崎へアクアライン使用で45分以内に通勤可能だし、学童保育所が東清小内にあるために親御さんは、安心して働ける環境にあると思います。また、現在、東清小児童数は54名のうち、学区外からの通学者は22名と、41%を占め学区外の児童からも人気のある学校として躍進中です。それに、令和4年3月中旬には令和4年度の1年生にと横浜から1家族が移住してくることが決定しています。</p>		

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 ( 43 名)	代表者	三根 裕之
来年度以降の 事業展開予定  <b>審査基準： 「発展性・自立性」</b>	<p>令和3年の活動は参加者には好評だったが、令和4年4月1日の入学児童数10名の目標には達しませんでした。これはPRの不足に原因があると考えます。令和3年度途中からは地区の自治会の賛同が得られたので、来年度以降からは東清小・PTA・学童保育・まちづくり協議会と協力して今までの活動を継続していきます。また、チラシ・回覧板・SNS等を利用して各幼稚園や職場・地区外の自治会へ、「自然と便利さを併せ持った東清小」「少人数校のメリット」をPRしていきます。令和5年4月1日新入学者目標10名！</p>		
過去の活動実績	<p>令和3年2月に東清小のプール横に畑を作り、5月に子供達と一緒にサツマイモを植え、4月は近所の山でタケノコ掘り、5月は田植えを実施、6月はホタル観賞会、7月はやっさいもっさいオンライン祭りに参加及び東清小PRのビラのポスティング大作戦に参加、9月は新一年生と九州から引っ越してきた2年生に新米30kgプレゼント、2年生の「町探検」の授業で「見守りたい」とのインタビュー会に参加、10月に子供達とサツマイモの収穫をし、11月はSDGs教育の一環として「風船飛ばし」の実施協力、およびピアノ演奏鑑賞会の実施、12月は東清公民館と協働でしめ縄作りと竹とんぼの飛ばしを実施しました。Facebook発信や会報の毎月発行をして広く活動を知ってもらおうとしました。</p> <p>また、1年を通して、見守りたい活動を実施しており、1月からは「産業廃棄物中間処理工場の和幸殿」からも見守りたい活動への参加をいただいて共に活動しております。それと、空き家バンク制度を利用し、地区外からの転入者を受け入れる活動を続けています。東京・横浜・川崎からの移住者の住居&amp;就職の紹介・助成活動、東清小の学童保育所サンシャインクラブの紹介による保護者の就職可能化活動、英語教諭の紹介を実施しました。</p>		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 4

事業名称	木更津市立東清小を存続させる事業		
団体名 (構成人数)	「輝け！東清小、未来の会」 ( 43 名)	代表者	三根 裕之

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	400,000		報償費	50,000	外部講師 (ホテル観賞、しめ縄作り) ピアノ演奏者
各自治体からの助成金	110,000	東清小学校区の自治会	旅費	10,000	外部講師の交通費
募金	30,000	募金箱2個使用			
雑収入	10,000	学区外の子供のイベントの参加費	消耗品費	40,000	会報紙代、コロナ対策費 (消毒アルコール、ティッシュ)、会報インク代
卒業生からの寄付	50,000	10名×¥5,000/1名			
			燃料費	5,000	会報配達費 (ガソリン代)
			印刷製本費	200,000	東清小PRのためのチラシ
			保険料	35,000	賠償責任保険料 (ボランティア保険料)
			原材料費	60,000	苗、種代、風船、ヘリウムガス
			備品購入費	200,000	垂れ幕製作費、旗50本
合計	600,000		合計	600,000	

<p>事業名称</p>	<p>高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為に ボール運動活動及び普及事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>生き生きボール運動の会 (42名)</p>	<p>代表者</p>	<p>斉藤 きよ子</p>
<p>事業の内容</p>	<p>15cmのボールを2個使って、音楽に合わせて楽しく無理なく出来る運動です 筋トレ・ストレッチ・有酸素運動を行い、運動量を増やしてロコモティブシンドロームと認知症の予防を行います</p> <p>事業内容は下記のとおり                  (1) 週一回のボール運動の実施 2カ所                  金田地域交流センター (毎週金曜日 10時～12時)                  桜井公民館 (毎週火曜日 13時～15時)                  (2) ボール運動を広める為の基礎作りとして指導者養成講習会の実施                  (3) イベントや市内の各公民館・社会福祉協議会・地区役員の方へのPRや普及活動の実施                  (4) 文京公民館「生き生きボール運動」のサークル立上げ準備                  (5) 年1回、地区(金田・桜井・市原)対抗ボール運動会(ボーリンピック)を実施して、モチベーションアップを図る ⇒ 秋予定                  (6) 定期的に介護施設等へのボランティア                  以上の内容を実施して、市内全域でボール運動を普及させて行く</p>		
<p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>			
<p>事業の必要性と目的</p>	<p>【現在の課題】                  ①、高齢化社会に伴いロコモティブシンドローム(運動機能低下)や認知症が地域の課題となっています。                  65歳以上の約5.4人に1人は要介護(要支援)の認定を受けています。(2017年5月末現在)                  認知症は2025年には約700万人と予想されています。                  ②、新型コロナウイルスの自粛生活の環境化で、体力低下と近所の方との地域の結びつきが低下しています。                  この課題に向けて私たちのボール運動が、少しでも貢献出来る活動を目指します</p> <p>【目的】                  ボール運動で運動量を増やして、ロコモティブシンドローム(運動機能低下)を防ぎ、ボール遊びの利点を生かした楽しく無理のない運動で運動量を増やす。                  クループ運動やゲーム形式で、話し合える機会を多くして対人交流を多くして、認知症予防を図る。                  楽しいから、またやりたくなる、地域の人達が集まりやすい環境を作る。                  【木更津市に於いても健康増進事業(きさらづ筋力アップ体操・自立生活体操)として運動を行っています。】                  高齢者対策や新型コロナ対策として、地域に少しでも役に立てる活動を行って行きます。</p> <p>よって、このボール運動を市内全域に普及させて、健康増進事業としての市民の運動量を増やし、認知症予防としての活動を行います。</p>		
<p>審査基準： 「公益性」</p>			
<p>スケジュール</p>	<p>令和4年4月～令和5年3月31日                  金田地区交流センター 毎週金曜日 10時～12時                  桜井公民館 毎週火曜日 13時～15時                  令和4年8月 ・ 令和5年2月                  指導者養成講習会 年2回                  令和4年11月 場所 金田地域交流センター                  各地域対抗ボール運動会(ボーリンピック)                  金田地区・桜井地区・市原地区                  令和4年4月～                  文京公民館サークル立上げ準備                  令和4年 4月～                  市内公民館及び地域へのPR活動                  令和4年4月～                  公民館体験会活動やPR活動の打ち合わせ                  (金田地域交流センター)                  令和4年10月～11月                  各種のイベント参加                  (オーガニックフェスタ・君津圏域公開フォーラム等)                  令和4年6月・令和5年2月                  介護施設等へのボランティア</p>		
<p>審査基準： 「実現性」</p>			

<p>事業名称</p>	<p>高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為に ボール運動活動及び普及事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>生き生きボール運動の会 (42名)</p>	<p>代表者</p>	<p>斉藤 きよ子</p>
<p>事業の特色</p>	<p>ボールを使った運動は、子供の運動教育から一般の運動等いろいろありますが、系統立てた一連の運動プログラムはありませんでした。 本ボール運動は、最初から最後までボールを使った運動となります。 音楽に合わせて、楽しく・笑って運動して、知らない間に筋トレ・ストレッチ・有酸素運動になっている運動法です。 1. 留い筋トレは楽に、きついストレッチは気持ちよく伸ばし 2. 団体形式や簡単ダンスで楽しく運動量が増やせる 3. 団体運動やゲーム形式で、参加者同士の交流が深くなる 4. ボールが指先を刺激する事、動くボールを扱う事、難しくて出来ない動作をする事等により、脳が活性化され認知症予防となります 日本のどこにもやっていない、本市でのみ行われている運動法です。</p>		
<p>審査基準： 「独創性」</p>	<p>指導者育成とボール運動のPR活動を実施し、地域に一つでも多くの活動拠点を作る。 【文京公民館サークル立上げ】 ボール運動は4年前に文京公民館の自主事業として始まり、一年間実施した経緯があります。 関係の深い文京公民館でサークル活動が出来るように、立上げ活動を進める。 【各地域対抗ボール運動会(ポーリンピック)】★11月実施予定 速さを競ったり、回数を競ったり、仮装変装や、合唱や簡単ダンスで楽しい発表の場を作り、ボール運動の魅力を発信して普及活動を図る 【ボール運動のミッション】 今後、一人でも多くの方に、参加して頂ける環境(場所と活動)を作って行き、現在の会員の方には継続して参加できるように、楽しくおしゃべり出来、楽しく運動できる運動プログラムを作って行きます。 地域のひとりひとりが、楽しい日々を送れて希望の持てる木更津なるように活動を継続して行きます。</p>		
<p>審査基準： 「発展性・自立性」</p>	<p>【活動実績】 金田生き生きボール倶楽部(金田地域交流センター・毎週1回) 2019年 開催日数 30日間 延べ参加者 274名 2020年 開催日数 32日間 延べ参加者 356名 (緊急事態宣言により3月～6月は中止) 2021年 開催日数 27日間 延べ参加者 356名 (緊急事態宣言により1月～3月・8月～9月は中止)  【桜井生き生きボール倶楽部】(桜井公民館・毎週1回) 2021年の活動実績は開催日数 27日間 延べ参加者 約320名 (緊急事態宣言により1月～3月・8月～9月は中止)  【ボール運動体験会】 ・岩根公民館 2月16日(水) 予定 ・4市老人クラブ連合会 2月18日(金) 社会福祉協議会主催 (新型コロナ対応に中止) ・文京公民館 3月4日(金) 予定 ・富来田公民館 3月15日(火) 予定  【活動経緯】 ボール運動は2018年2月の金田瓜倉地区老人会(遊学会)からスタート ①、2018年2月～ 金田瓜倉地区の遊学会(毎月一回) 参加者15名/回前後 30分間ボール運動 ②、2018年1月～ 一生涯歩ける身体作りの会(毎月一回) 参加者15名/回前後 宮野指圧鍼灸治療院の宮野院長が開催している勉強会 「健康についての勉強」と「ボール運動」で体力づくり ③、2018年5月～2019年3月まで 参加者8名/回前後 文京公民館の自主事業(毎月二回) 文京地区の人を中心に、ボール運動を1時間30分実施 ④、君津圏域公開フォーラム参加 2019年11月 ⑤、オーガニックフェスタ参加 2020年11月</p>		
<p>過去の活動実績</p>	<p>(上記の活動実績欄に記載)</p>		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	高齢者の「運動量を増やす活動及び認知症予防」の為に ボール運動活動及び普及事業		
団体名 (構成人数)	生き生きボール運動の会 (42名)	代表者	斉藤 きよ子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	443,000		報償費	260,000	講師謝礼240,000円 +20,000円 金田12回 桜井12 回 (10,000円×24 回=240,000円) 指導者講習会 10,000×2回= 20,000円
年会費	42,000	金田 1,000円×21人 =21,000円 桜井 1,000円×21人 =21,000円	委託費	320,000	○情報発信の為に ホームページ制作 300,000円 トップページ他5 ページ ○チラシデザイン 製作費 (文京地 区) 20,000円
参加費	210,000	金田 500円/月× 17人×12ヵ月= 102,000円 桜井 500円/月× 18人×12ヵ月= 108,000円	印刷製本費	40,000	○チラシ作成 10,000枚 (文京地 区) 20,000円 ○ボール運動内容 の説明書印刷 20,000円
			広告費	40,000	ポスティング 10,000枚配布 (文 京地区)
			消耗品費	30,000	事務整理用品 記録ファイル・用 紙・筆記用具等
			通信運搬費	5,000	会員連絡等
合計	695,000		合計	695,000	

事業名称	波岡HEL P		
団体名 (構成人数)	波岡HEL P実行委員会 (4名)	代表者	堀切 辰也
事業の内容	<p>地域住民が住み慣れた家、地区で安心して暮らすために普段の生活の中の「ちょっと困った」のお手伝いを住民同士の助け合い有償ボランティアでつないでいます。                  ちょっとした困りごとをお願いする利用会員 (1200円支払/1時間)                  ちょっとした困りごとをお手伝いする協力会員 (800円受取/1時間)                  会員制 (入会金1000円、年会費2400円)                  差額400円/1時間を運営費として事務局が無償ボランティアで運営しています。</p> <p><b>【主なお手伝い内容】</b>                  買物代行、ごみ出し、外出支援、お話相手、日曜大工、掃除、洗濯、調理、庭草取り、家具移動、電球交換、院内同行、ペットの世話、役所・銀行同行など</p> <p><b>【なぜ有償なのか?】</b>                  波岡HEL Pの協力は職業ではなく、住民同士の助け合いの活動ですが、責任を持って継続して活動していくため、また、利用する方が気兼ねなく利用できるように有償で行っています。</p>		
<p><b>審査基準:</b> 「公益性・実現性」</p>			
事業の必要性と目的	<p>地域住民の生活の質、向上を目的としています。                  社会構造の変化により、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増し、老々介護、独居、孤独死などの悲惨なニュースを多く聞きます。活動を通じて見えてきた景色は、介護保険では対応できない困り事がおおいこと、困っている事を近所や民生委員に知られたくないと考える人がおおいこと。                  無縁社会、人間関係の希薄化により相談する人がいない、頼る人がいない高齢者、生きづらさを抱えた方々の地域社会での居場所の確保、見守り、支援が必要となっています。                  これらのことを踏まえ、波岡HEL Pでは「お互いさまのまちづくり」を合言葉に、顔の見える人間関係の再構築を目指します。                  また、副次的効果としては支援を受けるだけでなく得意な事でお手伝いをする高齢者も増えるなど地域社会での役割を得て、活躍し感謝されることによる自己肯定、健康、生きがいの創出となっています。                  自分のペース、すき間時間での協力が可能なので子育て中のお母さんや育児と親の介護を同時に抱え離職中の方々のキャリアバンクの一助となっています。</p>		
<p><b>審査基準:</b> 「公益性」</p>			
スケジュール	<p>2022年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有償ボランティア活動の継続運営</li> <li>・会員をバランスよく増やしていくための広報 (チラシ配布、掲示) 実施</li> <li>・会員数増加によりエリア担当コーディネーターを有償ボランティアにて設置</li> <li>・円滑な運営を目的とした波岡HEL Pサイトの導入</li> <li>・畑沢HEL Pとの連携</li> <li>・地域包括支援センター等、関係団体との連携、情報交換を適宜に行う</li> <li>・より良く継続していくために協力会員同士の情報共有、情報交換の機会をつくる</li> <li>・市内その他地域の設立のきっかけづくりを目指し希望の各所でスタートアップ勉強会の開催</li> <li>・会員の知識、スキルアップを目的に講座開催</li> </ul> <p><b>【スケジュール】</b>                  2022年                  7月「介護認知症」講座                  8月会員情報共有、交換会                  9月スタートアップ勉強会                  10月「タブレット、スマホ」講座                  2023年                  1月「DIYリフォーム」講座                  2月会員情報共有、交換会                  3月スタートアップ勉強会                  ※講師、コロナ、情勢の変化により予定、内容の変更の可能性あり</p>		
<p><b>審査基準:</b> 「実現性」</p>			

事業名称	波岡HEL P		
団体名 (構成人数)	波岡HEL P実行委員会 (4名)	代表者	堀切 辰也
事業の特色	<p>・困りごとの内容によりお手伝いする側とお手伝いしてもらう側のどちらの立場でも参加できる。</p> <p>【対象エリアを限定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・波岡地区は高齢者地域と子育て地域がわかれているため困りごとも異なる。その異なる困りごとをお互いに助け合っています。</li> <li>・移動時間、交通費のコストの負担が少なく、困りごとにもタイムリーに対応できる。</li> <li>・身元がはっきりしていて共通の話題がおおく会員同士なじみやすく安心できる。</li> </ul> <p>【多様な困りごと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いを限定することなく多様な困りごとにフレキシブルに対応できる。</li> <li>・自分の得意、趣味でお手伝いするので生産性が高い</li> <li>・サービス内容に関わらず料金は一律なので安心して利用できる。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献を主眼に置いた活動のため、災害時に備え専門技術やリソースを災害復旧に役立てる呼びかけを行っている。</li> <li>・市内初の有償ボランティア団体であったこともあり、他の地域ではじめる方の見学、相談の場でもあり、新規の設立支援（ノウハウ、資料の共有）を行っている。</li> <li>・福祉と営利活動の中間の事業であり、比較的リラックスした雰囲気でお手伝いが行われることにより利用会員からは「ゆっくり作業して話し相手にもなってくれる」「単なる困りごとの解決でなく心のよりどころとなり安心の一つになっている」協力会員からは「待ってました、ありがとうなどの笑顔にこちらが励まされる」「平凡な主婦の経験、趣味が役立つらしい」「利用会員さんから教わる事がおおい」「新たな自分の発見がある」などの参加メリットがある。</li> </ul>		
<p><b>審査基準：</b> 「独創性」</p>			
来年度以降の事業展開予定	<p>ボランティア活動の継続運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・波岡HEL Pサイト展開</li> <li>・会員の知識、スキルアップを目指し、学習会・講座などの開催や参加を行います。「高齢者デジタル講座」「防犯・防災」など</li> <li>・オンライン、オフライン双方にて場所を確保し住民同士のつながりのきっかけづくりを行う</li> <li>・緊急時、災害時に備え連絡体制、連絡網の環境の展開</li> <li>・地域課題である空家問題において空家の管理、及び、元気なうちから計画を立て「空家にさせない」対策に取り組む</li> <li>・近隣地区の関連団体とのネットワーク構築を図り情報交換を行い、活動の継続を目指します</li> <li>・スタートアップ勉強会、広報を通じて市内全域に有償ボランティアを展開する</li> </ul>		
<p><b>審査基準：</b> 「発展性・自立性」</p>			
過去の活動実績	<p>2019年9月以降現在まで102時間、月平均約8時間の作業実績。</p> <p>作業内容は、買物代行、草刈り、話し相手、電球交換、その他と多岐にわたり実施しています。</p> <p>紹介元は、木更津市南部地域包括支援センター、民生児童委員、木更津市社会福祉協議会、からの紹介による紹介も相当数あり今後も連携予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年12月には代表が木更津市、木更津市社会福祉協議会の後援を受け「相続、家族信託」「高齢者認知症と周囲の対応」「デジタル終活とスマホ、タブレット」講座を開催実績あり。</li> <li>・代表が、他地域有償ボランティア団体設立希望者との情報交換を経て。その結果、畑沢地区において畑沢HEL Pが始まりました。</li> <li>・地域自治会、地区社協、民生児童委員などで組織された「地域を考える会」との連携により会員募集イベントを行った。</li> </ul>		

事業名称	波岡HELP		
団体名 (構成人数)	波岡HELP実行委員会 (4名)	代表者	堀切 辰也

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	156,000	800円×120時間 講師謝礼 (3回) 60,000円
入会金	15,000	1000円×15人	消耗品費	117,000	事務用品、用紙、 草刈り機、チェー ンソー (刃)、そ の他
年会費	84,000	2400円×35人	燃料費	50,000	草刈り機、チェー ンソー、発電機、 その他
賛助会費	30,000	3000円×10口	保険料	60,000	東京海上日動ヘル パー保険 2000円×30人
報酬	144,000	1200円×120時間	印刷製本費	40,000	呼びかけ資料印 刷、コピー
			備品費	138,000	ハイウォッ シャー、保管庫 草刈り機
			委託費	212,000	サイト制作費 200,000円 サーバー費 12,000円 (1000円× 12か月)
合計	773,000		合計	773,000	

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾 (15名)	代表者	鶴岡 泰司
事業の内容	<p>農業や農村を取り巻く環境は厳しく、特に中山間地は小規模であり後継者や担い手不足もあり行政の支援は、なかなか進んでいません。</p> <p>その代表的な木更津市の東部の真里谷の地で、耕作放棄地を活用して交流の場とします。そこでは、露地野菜の栽培等を通し農業体験して貰い、里山の魅力・楽しさを発信します。地域の魅力度アップに寄与するよう取り組みます。</p> <p>市民農園のように区画地を貸与して終わりではなく、貸して、借り手、お客の立場から、よりよい方法を研究して観光農園の様々な形態を、提案して地域の活性化に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有機肥料の作り方等 (オーガニック栽培の研究)</li> <li>2. 収穫方法、販売方法の検討 (観光農園のシステムの構築)</li> <li>3. 楽しい農業の追求 (料理の研究・講習会)</li> <li>4. 管理作業の省力化 (除草、農薬等)</li> <li>5. 会員制による農業経営の安定を (働き方改革・法人会員を募集)</li> <li>6. 不耕作地・空き地の紹介・あっせん</li> </ol>		
<p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>	<p>事業の必要性と目的</p> <p>少子高齢化の進展で地域の過疎が進み、地域の活力が消失しています。自然豊かな地域の魅力を感じてもらえ、定住者が増える契機となるような農業・農村体験を企画運営する地元農家の研究の場とします。</p> <p>インターネット（ホームページの作成）やマスコミをフルに活用して、里山農業体験塾の「観光農園」をPRし、一步一步着実に交流人口の増を目指します。</p> <p>道の駅、ブルーベリー協議会、J A木更津、観光協会と連携し活動します。</p>		
<p>審査基準： 「公益性」</p>	<p>スケジュール</p> <p>3, 4, 5月 協力農家の確保 【耕作地 農機具の確保 指導者の確保】 事務所、納屋、作業場の決定、看板製作、栽培計画 収穫祭の企画 6月は、梅の収穫加工</p> <p>◎ジャガイモ栽培 3アール 親芋30k  耕うん 植え付け(3月上) 土寄せ(4月中) 収穫(6月中)</p> <p>◎カボチャ 4アール 苗100本  耕うん 元肥20k 堆肥 マルチ 定植 収穫(9, 10月中)</p> <p>◎大豆 (枝豆) 3アール  耕うん 播種(5月中) 移植 収穫(9月中)</p> <p>◎サツマイモ 3アール  耕うん 定植 収穫(10, 11月中)</p>		
<p>審査基準： 「独創性」</p>	<p>事業の特色</p> <p>木更津の東部の丘陵地で、新しい観光農園のシステムを提案していきます。</p> <p>会員制(個人 法人 家族)等を検討します。</p> <p>オーガニック農業を、探求してみます。</p> <p>収穫祭を交流の場として位置づけ料理方法の研究・発表もします。</p> <p>農作業もすべてを、交流の機会と大切に位置づけます。</p> <p>品評会、即売会などを企画開催します。</p> <p>定点カメラを用いて農作物の発育状況を発信します。</p>		
<p>審査基準： 「発展性・自立性」</p>	<p>来年度以降の事業展開予定</p> <p>不耕作地・空き家の活用を検討します。</p> <p>面積や事業内容を拡大し、サツマイモ等の6次産業化にトライしてまいります。</p> <p>キャンピングカー等での、来訪者に対応します。</p> <p>関係団体とのネットワークを構築します。</p>		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 7

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾 (15名)	代表者	鶴岡 泰司
過去の活動実績	ふるさとの秋を楽しむ会 梅の加工の料理教室 城山たけのこ祭りの参加	木更津茶華道協会と共催 富来田公民館に圃場を提供 (今年は共催) それぞれの団体で参加	

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 7

事業名称	里山農業体験塾		
団体名 (構成人数)	里山農業体験塾 (15名)	代表者	鶴岡 泰司

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	100,000	謝礼
会費	150,000	一人 10,000	旅費	20,000	交通費
参加費	50,000	イベントにより決定	消耗品費	50,000	事務用品
寄付金	130,000	協力者より	燃料	60,000	トラクター等の燃料
			印刷通信運搬費	50,000	ポスターはがき
			使用料・賃借料	300,000	畑、山、休憩所、作業場
			原材料	250,000	種子、苗、肥料、マルチ
合計	830,000		合計	830,000	

事業名称	ご朱印で木更津を盛り上げる事業		
団体名 (構成人数)	秀和会 (9名)	代表者	大貫 めぐみ
事業の内容  <b>審査基準： 「公益性・実現性」</b>	<p>本事業は、文字や絵で木更津を表現したご朱印帳を製作販売して、ご朱印巡りをしてもらいにより、木更津駅周辺の寺、神社等に人を呼び込み駅周辺の活性化を図ることを目的としています。</p> <p>木更津駅から新しくオープンした港の商業施設や通りのお店、寺、神社、観光スポットを紹介するマップを、ご朱印巡りの意味、作法の説明も入れて製作する。</p> <p>また、マップは、ご朱印帳に添付して販売するだけでなく、駅前の観光協会に置いていただき、駅からご朱印巡りと食べ歩きスタート地点にしたいです。</p> <p>ご朱印巡りが一度で終わりにならないように、SNSへ投稿し、食べ物、お土産、観光スポット等何度でもご朱印巡りと食べ歩きに来てもらえるようにしたいです。</p> <p>公共交通機関を使いながら、歩いてもらうことで、健康増進につなげたいです。</p> <p>無料情報掲示板やびびなびさんにも活動を投稿していきます。</p>		
事業の必要性と目的  <b>審査基準： 「公益性」</b>	<p>木更津駅から、富士見通り周辺（与三郎通り、さかんだな通り、みまち通り）で触れられる、木更津の文化、歴史をSNSへの投稿により新しいコミュニケーションの場として、かつて木更津の合言葉であった「みんなお隣さん」を甦るように、SNSで見知らぬ人同士が情報交換をしたり、町の歴史、文化を知り、興味をもってもらい、広められ、伝えられるような活動をしていきます。</p> <p>そして、海外からの観光客にも寺町、木更津の歴史、ご朱印巡りという日本の文化や再開発された商業施設をSNSで広めていく活動をしていきます。町中で映えるスポットに印をつけたり、探してもらい、SNSにアップロードし、反響を見て新しいスポットを作るなど、人の流れを作り、子供に興味をもってもらえる賑やかな歴史のある町にできたらと思いました。</p>		
スケジュール  <b>審査基準： 「実現性」</b>	<p>R4. 1月 発起</p> <p>2月 ご朱印帳作成に伴う打ち合わせ</p> <p>4月 MAP作成に伴う打ち合わせ（本事業開始）</p> <p>7月 売り場調整</p> <p>8月 デザインが決定次第 印刷にかかる</p> <p>10月頃 販売開始 SNS投稿</p>		
事業の特色  <b>審査基準： 「独創性」</b>	<p>製作希望のご朱印帳には、木更津出身の筆文字セラピストの遠山崇さんの心理学プラス言霊の書道アートの絵文字、文字で木更津の歴史観光スポット、寺を描いたご朱印帳を製作します。</p> <p>遠山さんの描くスピリチュアルでカラフルな色彩の文字、絵で木更津を表現してもらい、老若男女に幅広く受け入れられるご朱印帳を製造し、販売をすることにより木更津の寺町の魅力を伝えていきます。</p>		
来年度以降の事業展開予定  <b>審査基準： 「発展性・自立性」</b>	<p>今回ご朱印帳が製作できましたら、駅前の木更津第一小学校に2冊差し上げ、校内希望者2名の児童に食べ歩き、ご朱印巡りをしてもらい、かずさFM等で話をしてもらいたいと思っています。</p> <p>久留里線沿線の小学校にも配り、久留里線の乗車を促したいので、小、中、高と少しずつ協力していただける学校を増やしたいです。</p> <p>学生が来て、集まるお店が必要となる町にしたいので学生向けのお店がオープンして学生がスマホをいじり、喋って宿題を教え合っている風景のあるみなと町にしたいです。デジタル時代の今、子供たちにもびびなびなどの投稿も手伝ってもらいたいです。</p>		
過去の活動実績	新規事業のため実績なし		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 8

事業名称	ご朱印で木更津を盛り上げる事業		
団体名 (構成人数)	秀和会 (9名)	代表者	大貫 めぐみ

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	115,000		印刷製本費	130,000	ご朱印帳100冊 MAP 3,000枚
ご朱印帳売り上げ	50,000	500円×100冊	写真撮影代	30,000	ご朱印帳100冊 MAP 3,000枚
自己資金	8,000		交通費	3,000	ガソリン代 (チラシ 配達)
			消耗品費	10,000	ティッシュ (MAPや チラシを置いてい ただける飲食店等 へのお礼用)
合計	173,000		合計	173,000	

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
事業の内容	<p>木更津市の伝統あるイベントの「港まつり花火大会に」に由来する、プログラミング技術活用したweb上で作品が閲覧できるオンラインイベント「オンライン花火大会」の開催に向けた、プログラミングワークショップを実施します。</p> <p>プログラミングとは、「コンピュータに、こちらが意図する動き（プログラム）を予め指示する（書き込んでおく）」ことで、木更津市でも令和3年度から小学校・中学校・高校においてプログラミング教育が必修化されました。</p> <p>ワークショップでは、木更津市の子ども達を中心とした地域住民を対象に、無料で開催し、花火アニメーション作品をプログラミングにより作成します。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、オンラインとリアルハイブリッド開催を予定しており、リアル会場は、「みらいラボ」、「きさてらす」を主要会場とし、今後の関係機関との協議次第で市内の学校や公民館での開催も検討しています。</p> <p>オンライン花火大会は、これらのワークショップでの作品を集約し、動画コンテンツとしてweb上で閲覧できるよう編集、webシステムの構築を行い、オンライン上で花火大会を開催しようとするものです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染を懸念し、花火大会等のイベントに会場できない方にも花火コンテンツを楽しめる機会が創出でき、また、リアル会場だけでない楽しみの場を設けることにより、イベント参加人員の分散を図り、感染拡大にも寄与できると考えます。</p> <p>私たちは、これまで「みらいラボ」や「きさてらす」において、ITキッズフェスタ等のプログラミングワークショップを開催してきました。事業実施にあたっては、これまでのノウハウや、動画やwebに知見のある専門家の協力を得て実施します。</p>		
<p><b>審査基準：</b> 「<b>公益性・実現性</b>」</p>			
事業の必要性と目的	<p><b>【木更津市にプログラミング教育の充実必要性】</b></p> <p>現代社会において、プログラミングで動作する機器は身の回りのありとあらゆるものになってきています。このような環境下では、プログラミングの知識や理解があるとないとは、大きな差になってきます。</p> <p>例を挙げると、コロナ禍でもテクノロジーを活用して感染症に対応するIT化（デジタル化）などでも注目されています。コロナ禍で感染症対策に上手く対応し、オンラインシステム等をスムーズに使いこなせた方々の多くがプログラミング的思考を身につけていたと言われていました。</p> <p>これからの新様式の社会には、プログラミングの考え方を身につけるのはすべての人にとって必要だと、主要各国の政府が提言しています。</p> <p>令和2年の小学校から順次必修化された木更津市のプログラミング教育は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校休校の影響等により、当初予定していたレベルでは実施されていないと伺っています。</p> <p>しかし、コロナ禍の「デジタル化・オンライン化」等の必要性から見える通り、プログラミングを含むIT教育は、これからの地域教育に非常な重要ものであることから、本事業の教育的必要性は高いものと考えます。</p> <p>以上を踏まえ、本事業の目的は、「プログラミングを活用したワークショップおよびオンライン花火大会の開催により、木更津市のプログラミング教育と、withコロナ時代の新たなイベントのあり方を地域に提供する」こととします。</p>		
<p><b>審査基準：</b> 「<b>公益性</b>」</p>			
スケジュール	<p>令和4年4月 ワークショップ開始 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催</p> <p>令和4年6月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催</p> <p>令和4年8月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催</p> <p>令和4年10月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催</p> <p>令和4年12月 リアル会場「きさてらす」 + オンライン開催</p> <p>令和5年2月 リアル会場「みらいラボ」 + オンライン開催</p> <p>作品を集約し編集作業・webシステム構築作業</p> <p>令和5年3月 オンライン上にてイベント公開</p>		
<p><b>審査基準：</b> 「<b>実現性</b>」</p>			

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕
事業の特色  審査基準： 「独創性」	本事業で提供するワークショップは、本団体と関係者により開発したオリジナルの花火アニメーションを作成するプログラミングワークショップで、昨年度のワークショップ参加者からも評判がよく、10人が作れば10通りの花火が出来上がることから、プログラミングを楽しみながら学べる活動となっています。 令和3年に実施した4回のワークショップはすべての開催で予約が満員御礼となり、感染対策で人数を絞りながらの実施にもかかわらず、述べ人数250名を超える方々にご参加いただきました。 本団体は、木更津市で平成30年に始まり、これまで多くのプログラミングワークショップを実施してきました。企画参加者の評判もよく毎年企画を楽しみにいただいている方が多くおられます。 以上のことから、オリジナルプログラムを使用した本事業を、地域で長年のプログラミング教育実績を持つ本団体が実施することが独創的な事業と言えます。		
来年度以降の 事業展開予定  審査基準： 「発展性・自立性」	3年目となる来年度は、支援金の援助を受けつつ、徐々に企業からの協賛金等、支援金以外の運営資金の割合を増加させていき、自立したサステナブルな運営方式に移行していく予定です。 協賛する企業から見ても、魅力的な貢献意義のある活動にしていくため、地域や時代に求められる教育活動に発展させながら提供していく予定です。昨年度の実施にあたっては、木更津エリアで知名度や歴史のある企業・団体に協賛していただきました。 プログラミングで作成するプログラムやワークショップは、得られた知見等を取り入れて、さらに魅力的なコンテンツに昇華させていくことが可能です。昨年のワークショップからも、参加者さんが行っていただいたプログラムアレンジなどの良い改善ポイントが得られました。このような実績を活かして、3年目以降もアップデートした内容を提供し、活動を発展させていく予定です。		
過去の活動実績	木更津エリアにて3年以上の期間に渡り、プログラミング教育を始めとする地域教育に貢献する活動を実施 2018年7月 「ITキッズフェスタ夏」 みらいラボにて開催 約150人来場 2018年11月 「ITキッズフェスタ秋」 みらいラボにて開催 約200人来場 2019年7月 「ITキッズフェスタ夏」 みらいラボにて開催 約250人来場 2019年8月 「ITプログラミングフェスタ」 きさてらすにて開催 約250人来場 2020年4月 コロナ禍において「ITキッズフェスタ」をオンラインで開催 2021年1月 木更津市からの依頼により「オーガニックなまちづくり交流会」開催におけるデジタル技術協力を提供 2021年7月8月 オンライン花火プログラミングワークショップを きさてらす にて実施 2021年9月10月 オンライン花火プログラミングワークショップをみらいラボにて実施		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 9

事業名称	オンライン花火大会		
団体名 (構成人数)	地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊 (5名)	代表者	鈴木 喬裕

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		委託費	400,000	Web予約システム構築、Web公開ページ構築、チラシデザイン
協賛金	300,000	協賛企業・団体・組織等	報償費	300,000	外部講師依頼 25000円×2名×6回
自己資金	200,000		使用料・賃借料	120,000	機材リース
			印刷製本費	150,000	チラシ印刷1.5万枚×6回
			消耗品費	30,000	タブレット用抗ウイルスフィルム、除菌シート、コピー用紙 電源ケーブル 等
合計	1,000,000		合計	1,000,000	

<p>事業名称</p>	<p>プレーパーク事業</p>		
<p>団体名 (構成人数)</p>	<p>太田山プレーパーク (3名)</p>	<p>代表者</p>	<p>小磯 恵理子</p>
<p>事業の内容</p>	<p>・プレーパークの開催 毎週金曜日15:00~17:00 ・外部講師を招いての市民参加イベントの開催 毎月第2土曜日10:00~16:00</p>		
<p>審査基準： 「公益性・実現性」</p>			
<p>事業の必要性と 目的</p>	<p>1、遊び場の不足 核家族や共働きの増加、一人っ子等、さまざまな環境により、放課後や休日に外で遊ぶ機会が無かったり、子ども達の居場所が無い状況がある。 家でゲームをして、1日外遊びをせず、過ごす子どもが増えている。 →ここに行けば誰かがいる！と言う安心感を与え、信頼できる地域の大人との交流の場の提供が必要。単発の開催ではなく、定期的に継続して行く事が最も重要。</p> <p>2、異年齢同士のコミュニケーション不足 家族や学校以外の人との交流が少ない。安心できる遊び場の減少により、異年齢との交流の場が無い。 →遊びを通じて様々な考え、立場、環境の人がいる事を知る機会を与えたい。年配者への尊敬、年下への優しさ等、当たり前な気持ちを自然と身に着ける環境を地域の大人が提供する必要がある。</p> <p>3、経験不足による思考力の低下 本来遊びから得られる様々な感覚を学ぶ機会が無く、自分で考えて行動する事ができない。遊具等、ルールのある物がないと遊び方がわからない子どもが増えている。 →自然の中で自ら遊びを作り出し、極力禁止事項をなくした環境=プレーパークが必要。大人は大きな事故が起きないように見守り、遊びのきっかけを作るだけであることが大切。しかし、たまた野放しにするのではなく、必要な時に相談が出来る大人のいる環境を与える必要がある。</p> <p>4、公園の魅力不足・整備不足 公園に人がいない。遊具が撤去されていて子ども達は何をしてよいかわからない。 →自然があるからこそ出来る遊び場がプレーパーク。 そこにある木にロープを掛け、ブランコやハンモック遊び。火の正しい扱いを学ぶ機会となる焚火。湧き水を汲んでの水遊び。落ち葉集めや昆虫採集。ただ寝転ぶだけ…太田山公園は自分で遊びを作り出すことができる自然の宝庫である。遊びのきっかけを作り、定期開催する事で子ども達に安心感を与え、遊びを通じて生きる力を育むことが出来る。 そのままの公園の姿でその公園の持つ本来の魅力を提案する事が出来る。</p>		
<p>スケジュール</p>	<p>令和4年3月15日頃まで チラシを作成し、近隣の小学校、幼稚園へ配布。周知を図る。 令和4年4月1日より ・毎週金曜日15:00~17:00 焚火の設置 ロープを使ったブランコや、ハンモックの設置 廃材等を使った工作コーナーの設置 駒などの昔遊びコーナーの設置 シャボン玉の設置 その他、季節や状況に応じた遊びのきっかけ作り。 ・毎月第2土曜日10:00~16:00 外部講師を招いてのイベント開催。 主に既存のプレーパークよりプレーワーカーを招いての遊び場の提供。 その他、自然観察会や、工作教室の開催。</p>		
<p>審査基準： 「実現性」</p>			

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク (3名)	代表者	小磯 恵理子
事業の特色  <b>審査基準： 「独創性」</b>	<p>自分の責任で自由に遊ぶをモットーに、自然そのものを使った遊びを提案する。日常の中出来にくくなった大胆な遊びを通じて子どもの自主性や、生きる力を育みます。 赤ちゃんから年配者まで、誰もが自分を出せる環境作りを提案し、地域活性化、異年齢同士の交流の場を提供します。 遊びの中心は子どもであり、大人は大きな事故を防ぐ見守りや相談相手となります。「静かにしなさい」「迷惑をかけちゃいけません」はありません。 極力禁止事項を無くすことで子育て中の保護者の持つ「思いっきり遊ばせたい」の気持ちにこたえる事が出来るのがプレーパークです。</p>		
来年度以降の 事業展開予定  <b>審査基準： 「発展性・自立性」</b>	<p>毎週金曜日、第2土曜日の定期開催を継続する。 活動費に関しては、遊び道具等継続して使用できる物が多いため、次年度からは削減できる見込み。 初年度は外部講師を招く機会を増やし、構成員の知識や経験を増やす。 来年度からは構成員自ら新しい遊びを提案できるプレーワーカーとしての活動を目標とする。</p>		
過去の活動実績	なし		

令和4年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 10

事業名称	プレーパーク事業		
団体名 (構成人数)	太田山プレーパーク (3名)	代表者	小磯 恵理子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	300,000	外部講師謝礼、ボ ランティア飲料水
クラウドファン ディング	200,000		印刷費	30,000	ポスター、チラ シ、名刺
自己資金	50,000		消耗品費	310,000	遊び道具、木工道 具、文房具、雑貨
			材料費	50,000	木工材料費
			備品購入費	60,000	リヤカー、クライ ミングネット
合計	750,000		合計	750,000	